

ウダヤナ大学（9月2日～9月30日）

受け入れ大学：ウダヤナ大学

参加ユニット：H, I, J（15名、内4名がトライアルコース、11名がショートコース）

宿舎：2つのKostに分かれて宿泊。2つの宿舎は100m程度離れている。宿舎の前には食堂及び売店あり（7:00-23:00）。

①Kost “Swadaya”（住所：Tukad Badung Street XXIII, No.17, Renon, 電話番号：+62-361-7978303, +62-81-239-86180 費用：160 万ルピア（新開発地域にできたばかりの新しい宿）、10名が宿泊

②Kost “Terima Kost”（住所：Jl. Tukad Badung 333 Renon, Denpasar, 電話番号：+62-81-337-700-355, +62-81-238-657-66, 費用：130 万ルピア（新開発地域）

交通手段：350,000 ルピア/日（運転手付きの車）（9時～22時まで貸し切り）（最初の一週間は予約、それ以後は学生に判断させる）5名が宿泊

Dr. Gede（千葉大学大学院修了）

担当：大嶋竜午



Kost Swadaya



Terima Kost

9月2日（月）

17:25 学生13名がデンパサール空港到着、ウダヤナ大学学生 Benita, Putri がチャーターしたミニバスで、食堂及びKostへ移動。

コメント：既に交流のある学生がお世話をしてくれたため、和やかに時間は過ぎた。空港にてSIMカードを買った。

9月3日（火）

10:00 ウダヤナ大学にて Welcome Ceremony

参加者：ウダヤナ大学学長，学部長，教員3名，インターナショナルオフィス事務方3名，ウダヤナ大学学生（ツインクルプログラムで来日した学生2名と日本語学科学生約10名），千葉大学学生：13名，千葉大学教員1名（大瀧）

〈内容〉

- ・ 学長からの歓迎の言葉
- ・ 千葉大学からの挨拶（特任助教大瀧）
- ・ 学長らと記念撮影
- ・ インターナショナルオフィスからウダヤナ大学の紹介
- ・ 千葉大学学生から大学，研究，自己等の紹介，及び授業案についてのプレゼンテーション
- ・ 昼食（お弁当を用意していただき，ウダヤナ大学の学生とコミュニケーションをとりながら食事）

13:00 大学にて授業案の修正

16:00 解散

コメント：学長が Welcome Ceremony に参加し，歓迎の挨拶をされた。学長の専門は医学で，学長になったのは最近のことであった。これまでに幾度と来日したことがあるとのことであった。Ceremony はインターナショナルオフィスの方が行うなど，厳粛な雰囲気で行われた。学生による自己紹介，研究紹介，授業紹介等はパワーポイントを用いて行われた。緊張した面持ちの学生が多かったが，英語での練習を積んできた様子は伺えた。



大学でのウェルカムセレモニーにて学長と記念撮影



ウェルカムセレモニーでの学生の発表



ウェルカムセレモニーでの学生の発表と交流の様子

9月4日（水）

参加者：ウダヤナ大学教員：1名（Dr. Made），SMA 1 教員 2名（英語教員：I Nyoman Budiasa,

English Teacher and handling Partnership, 他一名) 千葉大学学生 13 名, 千葉大学教員 1 名 (大
寫)

10:00 実習先高校 SMA 1 見学

授業紹介, 準備に必要なもの及び実験室の確認

12:50 SMA 1 食堂にて昼食

13:15 授業づくり再開

14:00 解散

コメント: 学生は積極的に質問などを行っていたが, うまく表現できない場合が多かった。アドリ
ブでの英会話には以前課題がある。一ヶ月の間にどれだけ英語が上達するか見守りたい。また, 大
量の印刷物を願ひすることや, 急遽準備物を願ひするなど, 準備が十分になされていないこと
が残念な点である。ただ, それぞれチームワーク良く活動していることには救われる。



9月5日 (木)

参加者: SMA 1 教員 1 名 (I Nyoman Budiasa), ウダヤナ大学学生 1 名 (Putri), 千葉大学学生
13 名, 千葉大学教員 1 名 (大寫)

7:20 SMA 1 Denpasar 集合・授業準備

8:20 日本文化授業 (第2学年3クラス)

10:30 バリダンス披露

12:00 昼食 (校長先生から弁当を用意していただいた)

13:00 解散

コメント：初めての授業で緊張している様子は伺えたが、はっきりとした声で授業が始まり安心した。導入部分の説明において、子どもの興味を完全につかめていない場合もあったが、それぞれ活動を取り入れていたため、子どもたちの楽しそうな様子を見ることができた。学生も授業が終わりホッとしているようであった。ただ、ユニットJの女子学生1人は、特定のグループメンバーとうまくコミュニケーションをとれない、授業に対する恐怖心がとれないということ、さらにパニック障害があることで、現在かなり苦しんでいることを大罵に伝えた。性格上、うまく感情や行動をうまくコントロールできないようであった。他のメンバーは、このことを理解しており、彼女自身にも、無理に授業に参加する必要はないこと、無理をする必要が無いことを伝えた。

授業後には、生徒によるバリダンスを披露していただき、一緒に踊るなどして、楽しんだ。今日もスナック及び昼食を用意してくれるなど、歓迎を受けている。最初はお客様として過ごしていた学生も、昼食のお弁当が届くと、「配りましょうか」と係の方に尋ねたり、片付けの際には「何かお手伝いしましょうか？」と自ら行動に動いており、成長が見られる。そういう学生の行動は他の学生に良い影響を与えている。後は、13人をリードできるよう全体に話しかけられる学生が出てくると、なお嬉しい。



ユニットH授業「書道」



ユニットⅠ授業「お風呂文化」



ユニットⅡ授業「婚活」



伝統の踊りを一緒に楽しむ

9月6日（金）

参加者：SMA 1 教員 1 名（I Nyoman Budiasa），千葉大学学生 13 名，千葉大学教員 1 名（大瀧）

7:20 SMA 1 Denpasar 集合 授業準備

8:20 理科授業 1 回目（第 1 学年×2 クラス）

11:30 SMA 1 Denpasar 歓迎会（伝統舞踊）

13:00 昼食

14:00 解散

コメント：理科授業初日とあって、授業前の準備時間には、学生はかなり集中していた。学生は総勢 13 名の大所帯であるが、このように自らプログラムに集中して取り組んでいることにこちらとしては助かる。実際の理科授業は思うようにいかない部分はあったようであるが、学生はある程度の満足感を得ているようであった。滔々と話をするのではなく、いかに子どもたちにとって新しい見方や考え方を示すことができるのかという点に焦点を当てて、指導案を改善する必要がある。授業後には、バリの楽器演奏をしていただき、その後、生徒が楽器の弾き方を学生に教えてくれた。学生らは、吸い込まれたように楽器練習に励んでいた。

来週は水曜日と木曜日に高校にて授業実施予定であったが、木曜日の都合が悪くなったと言うことで、水曜日に日本文化の授業と理科授業を両方行うように変更した。

9月9日（月）

自由行動

9月10日（火）

参加者：ウダヤナ大学日本語学会学生，千葉大学学生 13 名

ウダヤナ大学主催のスタディーツアー

9月11日（水）

参加者：SMA 1 教員 1 名（I Nyoman Budiasa），千葉大学学生 13 名，千葉大学教員 1 名（大瀧）

6:30 SMA 1 Denpasar 集合予定時間

7:10 学生到着（ドライバーが時間を勘違いしていた），授業準備

7:40 日本文化授業（第3学年×3クラス）（内1クラスは2年卒業プログラムの学生）（26 名，48 名，48 名）

8:45 理科授業

10:30 SMA 1 Denpasar 歓迎会（楽器演奏）

11:15 昼食

12:30 解散

コメント：集合が遅れたため，授業開始時間を1コマ分遅くした。またプロジェクターが何度も壊れるなどのトラブルがあった。それでも学生は堂々と授業をしてくれた。今日の生徒の方が先週受講してくれた生徒よりも，興味を持って授業に取り組んでいるようであった。授業後，2週間の実習を終えて，授業の振り返り及び授業改善を予定していたが，体調の悪い学生がでてきたため，午後は休養とした。

9月12日（木）

参加者：千葉大学学生 13 名，千葉大学教員 1 名（大瀧）

自由

19:00 2週間の授業の振り返り，共有，改善

20:00 夕食

21:00 解散

コメント：授業の振り返りでは，学生はやはり子どもの興味を引くかということに悩んでいた。それぞれのユニットが，毎回授業をしっかりと反省しており，成長している様子が伺える。来週は教

育学部の高木先生、そして翌週は、事務の吉見さんがいらっしゃるとのこと、学生主催で夕食会を開催することになった。この辺の気配りは素晴らしい。

財布を紛失した学生がおり、警察で紛失届（証明書）の発行をしたところ、お金を要求されたとのことであり。金額は本人に任せるということで、5万ルピア支払ってきたという。学生一名が先週末にサイクリング中に転倒し、肘をけがし、化膿しているとのこと、海外旅行保険適用の病院に行った。その病院にて、過呼吸になり、一日入院した。

9月13日（金）

当初の予定では、ウダヤナ大学日本語学科の学生と、バリの衣服についての説明等を通して交流する予定であったが、サポート学生の一名が、千葉大学学生はこの日、高校に行くという間違った情報を日本語学科の学生に流しており、急遽、この日の活動はキャンセルされた。

明日で帰国する2名は今日が最後の活動となった。

9月16日（月）

当初、ウダヤナ大学で開講されている授業や、研究室に訪問する予定であったが、準備が間に合わなかったという理由で、日曜日にキャンセルされた。その代わりに、ウダヤナ大学学生により博物館見学に出かけた。

今日から参加する2名が台風の中、無事にバリのメンバーに合流。

9月17日（火）

参加者：SMA 2 教員主に5名（学校長 Drs. Ketutu Sunarta, M. Hum, Drs. I Wayan Suarka Adnyana, M.Pd., Made Semadai Yasa, M.Pd（以上、英語教師）その他理科教員等,）、千葉大学学生13名、千葉大学教員1名（大瀧）

9:00 SMA 2 Denpasar 集合予定時間

9:40 学生到着（ウダヤナ大学学生が時間変更を大瀧及び千葉大学学生に伝えていなかった）、自己紹介、授業紹介

10:30 教室及び備品チェック（特にプロジェクターと実験器具のチェック）

11:00 控え室に戻り教員と交流（お茶菓子と水を出してくださる）

12:30 解散

コメント：ウダヤナ大学側の準備不足、そして連絡ミスなどが続いている。今日も9時に SMA 2 に集合の予定が、集合時間変更をウダヤナ大学側が把握しながら、こちらに連絡するのを忘れてい

た。ただし、このような問題はしばしばあり、残念ではあるが、大きな問題ではない。学校長に各ユニットの授業概要について学生が説明を行った。学生は授業について英語で説明することに少しずつ慣れてきたようである。また、自らの授業に必要なことを積極的に教員に尋ねたり、実際にチェックするなど自主性が発揮されるようになってきた。また、SMA2はスポーツが盛んで、特にバスケットボール部がバリ島で最も強い（この時点で、バリ島大会の決勝に進出、残念ながら実際は2位）ということから、学生がバスケットボールをバスケットボール部と一緒にすることを提案し、翌日授業後に試合をすることになった。

SMA2側からは、国際交流を是非行いたいということで、姉妹校となれる日本の高等学校を紹介できないかと依頼が来た。明日からはオーストラリアから高校生23名と教員3名が来校し、交流するということである。

教育学部准教授高木啓先生が学生の視察のため、夕方にデンパサール空港に到着した。学生と大畠が空港にて出迎え、夕食を共にした。空港への出迎えなども学生の提案である。



先生に手伝っていただきながら授業準備

9月18日(水)

ウダヤナ大学にてMOAについての会議①

参加者：Prof. Dr. dr. A.A. Raka Sudewi, Sp.S (K) (女性の Director), Prof. Mahendra, 2 other professors & 1 lecturer (Made), 千葉大学教育学部准教授高木啓先生，大畠。

10:00 挨拶，記念撮影 (Prof. Dr. dr. A.A. Raka Sudewi, Sp.S (K)退室，MOA について議論することは伝える)，MOA について議論

11:00 会議終了後，ツインクルプログラムの残りのスケジュール等を確認

コメント：会議には Director の先生他，重要なポジションについておられる教授らに参加いただいた。MOA については好意的に修正箇所を指摘していただき，ツインクルプログラムに対するウダヤナ大学側の意気込みが感じられる。9月25日に国際担当部署の方を交えて再度 MOA について会議を持つことを決めた。



ウダヤナ大学副学長と高木先生と共に

SMA 2 Denpasar での実習

参加者：ウダヤナ大学サポート学生1名 (Putri)，千葉大学学生13名，千葉大学教員2名 (高木，大畠)

12:00 SMA 2 集合，授業の流れ及びポイントを高木先生に説明

12:30 授業準備開始

12:30 日本文化授業

16:00 学外の体育館に移動し，バスケットボール部と交流試合

18:30 一時解散

19:30 SMA 2 Denpasar 学校長主催の夕食会

21:30 解散

コメント：少しずつ授業改善は進み、そして学生も授業になれてきて、良い授業になってはいるが、まだ説明中心の授業になりがちである。生徒とより相互作用のある授業に期待したい。

授業後は SMA 2 のバスケットボール部と交流試合を行った。男子バスケットボール部はバリ島で2位の強豪ということで学生一同緊張していたが、皆いい汗をかいたようで、試合後は満足感に浸っていた。体育館は学校から車で 20 分ほど離れたところにあり、高校の先生方に送迎をしていただき、また水や栄養補給のためのお菓子などを差し入れていただいた。スポーツでの交流、しかも SMA 2 が誇るバスケットボール部に挑んだ今回の交流は学生にとって実りの多いものであったようであった。

バスケットボールでの交流後、学校長主催で SMA 2 の教員約 7 名らと千葉大学学生及び教員との食事会が開かれた。SMA 2 には多くの視察が国内から来るという。それは 5 年ほど前に教育省の指定校となり、多くの教員研修を受けるなど、教員の力量が高められたからであるという。学校長は次のステップとして海外との交流を積極的に進めている。そのために毎週金曜日に教員は英語以外使用禁止などという取り組みを行っているという(ただし、授業内ではその限りではない)。また、学校長はこれまで卒業生を IPC (International Pacific College) (日本の支援で行われているという)に計 5 名程送ったことを誇りに感じているという。日本での会議にも期待しているとのことである。



日本文化授業の様子



バスケットボール部との交流

9月19日（木）

参加者：ウダヤナ大学教員1名（Dr. Nuarsa），ウダヤナ大学サポート学生1名（Putri），千葉大学学生13名，千葉大学教員2名（高木，大瀧）

12:30 SMA2 集合，授業準備

14:00 理科授業開始（当初の予定では 13:30 であったが，今日は満月ということでヒンズー教の宗教行事が行われたため急遽時間変更となった。）

（15:45 大瀧がジャカルタのチキニーに向かうため空港へ移動）

（24:25）高木先生が帰国の途につく

コメント：少しずつ授業改善は進み，そして学生も授業に慣れ，良い授業になってはいるが，未だ説明中心の授業である。特に，パワーポイントのみの説明が中心であり，ホワイトボードなどをより効果的に使うことで，英語力の不足を補うなど，効果的な授業として欲しい。学生らの中では自らの授業が既に筋の通ったものであると認識しているようであるが，実際はそうにはなっていないので，どの点に着目し授業を作り上げていくのか，指導した。



授業準備



婚活授業



活性炭素についての説明



書道についての説明

9月20日（金）

ウダヤナ大学文学部日本語学科学生によるバリ文化紹介

チキニーの小学校にて授業

参加者：インドネシア大学の学生多数、千葉大学学生（ユニットD・E）7名

8:00：学校集合，授業準備

9:10：理科授業開始（小学校4年生48名）

10:45：授業終了，片付け

11:30：昼食

12:30：解散

コメント：前日の段階で授業の略案しかできておらず，授業準備のため学生はほぼ徹夜の状態
で授業に望んだ。授業は，基本的にインドネシア大学の学生が授業を進め，日本人学生は
子どものグループに入り込み，子どもが未来のチキニーをモデルを使って作り上げる作
業を手伝った。子どもは豊かな発想で，様々な未来の都市を作り上げていた。しかしな
がら，「チキニーの未来を考えること」，「チキニーの良さを再発見すること」，「ど
のようにしたらさらに良い町にすることができるのか」，という授業の中核部分が抜
けてしまった。

9月21日（土）

13:00～17:00

一部学生とともに岡部先生らが企画したシンポジウムに参加。

9月22日（日）

After Fire Work Project の図書館完成セレモニーへ参加。

13:00：セレモニー開始

18:00：解散

コメント：完成された図書館前にて，多くの地域住民とともに，図書館完成セレモ
ニーが開催された。地域住民の代表者ら，日本の研究グループの代表者ら，そし
て日本財団の東南アジア総局長らが祝辞を述べられた。岡部先生の親戚である茶
道の先生を日本からお呼びし，お茶を振る舞った。その合間に，地域の子どもに
よる踊りや，上田君や澤井君によるダンスを披露し，場を盛り上げた。現地で活
動している学生らが地域住民から愛されているのがよく分かった。

9月23日（月）

チキニーの小学校にて授業

9:00：小学校に児童を迎えに行き，White Wall に引率し，授業開始

10:30：授業終了

コメント：小学生を White Wall プロジェクトが行われた場所に連れて行き，壁を
白く塗ることで，光を取り入れることができる効果などを学んだ。具体的には，カ
ラフルなペットボトルの底を切り抜いて作った飾りに子どもたちが絵を描き，白
壁の所につり下げた。

（大嶋，吉見はチキニーからバリ島へ移動）

9月24日（火）

9:00 : SMA2 集合, 授業打ち合わせ, ファイナルレポート,
ファイナルプレゼンテーションの準備

11:30 : 解散

19:00 : 吉見さん歓迎会

9月25日（水）

8:00 : SMA2 集合, 授業準備

9:00 : 授業開始

10:00 : ウダヤナ大学にて MOA についての会議（大畠, 吉見）

12:40 : 明日の SMA2 でのお別れ会での出し物等について話し合い

13:20 : 解散

コメント：学生が他のユニットの授業を観察したいとのことで、授業時間を変更して授業を実施した。学校には、色々な要求に答えていただき最大限のご協力をいただいている。日本文化に関して最後の授業日であり、学生はある程度余裕も自然と出てきながら、集中しているようであった。英語での説明など第一週に比べてだいぶよくなっている。

本日、千葉大学学生と SMA 2 のサッカー部がフットサルで交流することが予定されていたようであるが、千葉大学側に連絡が来ておらず実現できなかった。確認作業は何度も行う必要があると感じる。

ウダヤナ大学での会議には、副学長である I Made Suastra 先生, Mahendra 先生, Vice director の先生, Nuarsa 先生に参加していただき MOA について話し合われた。前回の会議では、MOA に柔軟性を持たせることで合意されたが、今回は、派遣人数・派遣期間・プログラム内容等をより明確にしたいということ、及び学長名も付して良いが、学部長レベルの名前も入れることなどが提案された。前回の話と異なる点が多いため確認したところ、MOA を柔軟なものにすることに関しては合意が得られた。日本での研修プログラム内容に関しては、ただの観光に終わらないように、研究室にて実験活動の指導を行うことなどを MOA に明記することなどが要求された。会議の途中で明らかにされたことであるが、当初の話では、ウダヤナ大学と千葉大学との包括的な協定は結ばれているとのことであったが、その協定は昨年で切れているとのことであった。それに関しても、再度提携することで合意された。

また、ウダヤナ大学国際課を訪問し、挨拶をするとともに、TWINCLE プログラムへの理解及びご協力をいただけるようお願いした。ここでも、昨年度に切れた協定を再度結ぶことを確認した。

吉見さんが翌日の早朝の便でガジャマダ大学に向かう。

9月26日（木）

8:00 : SMA2 集合

9:00 : 理科授業開始

15:00 : 理科の3授業終了

15:30 : お別れ会

16:30 : 解散

コメント:今日も各ユニット別々の時間に授業を開始し、お互いに授業観察を行った。一日の内に、授業開始時間が一転二転したものの 15 時までには全ユニットが授業を終えた。基本的に大寫一人で3ユニットを見ているために、理科授業を 90 分間通して見る機会は、今回の滞在で本日が初めてであった。授業のポイントとなる点（子どもたちに疑問を持たせるような）についてはこれまで指導してきたつもりであるが、どうしても基本的な説明を淡々としなければならない部分についての指導はおろそかになっていたことに気づいた。それでも、学生は少しずつ授業を改善し、一ヶ月前に比べてよりよい授業を展開していると感じる。H ユニットの2週間しか滞在していない学生が主に理科授業を担当したが、彼らと比べると、一ヶ月滞在したユニットの授業の方が洗練されている。それは、一ヶ月も滞在するのだから授業を改善しようという意識の表れのように感じる。

授業後は、SMA2での最終日ということで、お別れの会を開いていただいた。校長先生は出張で不在ということで、3名の副校長及び生徒に集まっていた。バリのダンスや校歌を披露していただいた。千葉大学側からは、日本の伝統文化である相撲を取り上げ、その説明と実演、そして押し相撲大会が行われた。また、最後には日本の卒業式などで歌われる歌を合唱した。この出し物を考える時間は1日しかなかったが、うまく企画し、提供できたと思う。彼らの力量に感激した。その後、写真撮影等をして名残を惜しんだ。SMA2では国際交流を推し進めたい考えで、いつでも来校して良いということであった。「SMA2の教員の家に滞在しても良い」、「ウダヤナ大学を通さなくても直接来ても良い」というほど、熱烈な歓迎である。

大関君が本日深夜便で帰国。

9月27日（金）

参加者 : Dr. Gede, ウダヤナ大学職員1名, ウダヤナ大学学生 (Putri, Benita), 学生の運転手, 千葉大学学生12名, 千葉大学教員1名 (大寫)

10:00 : ウダヤナ大学集合

10:30 : ファイナルプレゼンテーション開始

12:40 : 昼食 (弁当を用意していただく)

13:30 : 解散

19:00 : 夕食パーティ (学生コストにて)

コメント : Gede 先生の司会の基, ファイナルプレゼンテーションが始められた。学生は十分にプレゼンテーションの準備をし, 堂々と英語で発表していた。彼らの成長には驚かされる。ただ, プレゼンテーションのようにあらかじめ準備されているものに関しては, うまく話することができるが, 質問に対しての返答にはかなり困難を抱えているようである。今後の彼らの課題ではあるが, 一ヶ月前の様子から見れば, 今の状況はかなりの成長と言える。

ファイナルプレゼンテーション後に, ウダヤナ大学に用意していただき昼食を食べ, 解散した。
夜には学生主催の夕食会が開催された。

9月28日 (土)

帰国便へ搭乗

9月29日 (日)

日本到着